

# 三重県産材利用促進に関する条例検討会 委員全員による県内調査 報告書

令和2年7月21日（火）

（於：津市、松阪市）

## 目次

1	行程	2
2	参加者名簿	3
3	調査の概要	4
	(1) 特定非営利活動法人もりずむ 調査	4
	(2) ウッドピア松阪 調査	13
	(3) 松阪市 調査	22

# 1 行程

月日	調査箇所 (行程)	時刻			調査内容
		着	発	所用時間	
7 月 2 1 日 (火)	議事堂 発		9:00		【集合】8:55 議事堂玄関前
	(バス移動)				
	<b>特定非営利活動法人もりずむ</b> 三重県津市美杉町竹原241-8	10:00		1:35	・「川上」の立場からの県産材利用を見据えた取組等について
	(バス移動)		11:35		
	昼食(津市内)	11:50		0:45	
	(バス移動)		12:35		
	<b>ウッドピア松阪</b> 三重県松阪市木の郷町	13:20		1:35	・ウッドピア松阪における原木市場、製材、バイオマス活用の状況等について
	(敷地内移動)		14:55		
	<b>松阪市</b> ウッドピア松阪内の会議室で聴取り	15:00		0:50	・松阪市における県産材利用促進の取組等について
	(バス移動)		15:50		
議事堂 着		16:45		津駅経由	

## 2 参加者名簿

### ◎三重県産材利用促進に関する条例検討会 委員 11名

	役職	氏 名	選 挙 区	会 派
1	座長	たなか ゆうじ 田中 祐治	松阪市	自由民主党県議団
2	副座長	なかせこ はつみ 中瀬古初美	松阪市	新政みえ
3	委 員	なかせ のぶゆき 中瀬 信之	度会郡	新政みえ
4	委 員	はまい はつお 濱井 初男	多気郡	新政みえ
5	委 員	すぎもと ゆや 杉本 熊野	津市	新政みえ
6	委 員	やまもと さちこ 山本佐知子	桑名市・桑名郡	自由民主党県議団
7	委 員	なかもり ひろふみ 中森 博文	名張市	自由民主党県議団
8	委 員	たにがわ たかえい 谷川 孝栄	熊野市・南牟婁郡	草莽
9	委 員	にしば のぶゆき 西場 信行	多気郡	自民党
10	委 員	いまい ともひろ 今井 智広	津市	公明党
11	委 員	やまもと りか 山本 里香	四日市市	日本共産党

### ◎随員職員 2名

	役職	氏 名	所 属
1	主任	はせがわ きたし 長谷川智史	三重県議会事務局企画法務課
2	主任	まつい よしつぐ 松井 祥嗣	三重県議会事務局企画法務課

### 3 調査の概要

#### (1) 特定非営利活動法人もりずむ 調査

日 時：令和2年7月21日（火）10:00～11:35

場 所：特定非営利活動法人もりずむ活動拠点（津市美杉町竹原 241-8）

対 応 者：特定非営利活動法人もりずむ 藤崎 昇 代表理事長

三浦 妃己郎 代表副理事長

調査内容：「川上」の立場からの県産材利用を見据えた取組等について

調査行程：①座長挨拶、委員自己紹介

②調査内容についての対応者からの説明

③質疑応答

④県産材の天然乾燥の様子、もりずむの木工品の陳列、「鹿追犬プロジェクト」で活躍している犬の様子等の見学

⑤座長挨拶（御礼）

#### 【説明の概要】

- ・ 日本の林業は、1980年代をピークとして衰退の一途をたどっている。主な原因は、関税撤廃（1964年）による外材流入やバブル崩壊後の需要減に伴う木材価格の暴落、収益性の悪化である。丸太価格は30年前の1/3にまで低迷している。また、間伐の遅れで森林が荒廃し、豪雨の度に山地崩壊が頻発している。
- ・ 暮らしと森の繋がりが薄くなり、化学物質が氾濫して、化学物質過敏症、シックハウス症候群などアレルギーで苦しむ人が増えている。また、社会的ストレスが増大し、心身のゆとりを喪失して、心身の疾患等も増えている。したがって、心身を癒し、リフレッシュできる環境、空間が求められている。
- ・ こうした状況を受け、「もりずむ」は、「1. 食っていける、儲かる林業を確立して、森林と中山間地域を元気にする」、「2. 暮らしと森を繋げて、心身ともに健康な暮らし作りに貢献する」という2つの使命を掲げて、2012年12月に設立された。現在、正会員26名で構成している。
- ・ 「もりずむ」の戦略として、「食っていける、儲かる林業の確立」に関しては、「①付加価値を高めた木材による木材価格の適正化」、「②端材・不用木、森林空間の有効利用による収入源の複合化」を掲げている。また、「暮らしと森を繋げる」に関しては、「癒し、リフレッシュなどセラピー効果抜群の“森林空間”及び“100%天然乾燥材”を提供し、暮らしの中に広く普及する」を掲げている。
- ・ 「もりずむ」の事業構成としては、まず主軸事業として、「スローウッド「もりずむの木」」がある。これは、100%天然乾燥木材の製造販売によって、

木材の付加価値を高め、木材価格の適正化を目指すものである。また、収入源の複合化事業として、「①不用木の有効利用（「薪プロジェクト」及び「木工品の製造販売）」、「②豊かな森林空間の有効利用（「木こり体験ツアー」、「プレーパーク」等）」を進めている。

- ・ 主軸事業の「もりずむの木」製造販売については、伝統的林業（月齢伐採＋葉枯らし乾燥）による100%天然乾燥木材であって、かつ、トレーサビリティ確保によって付加価値を高めた地域木材の製造販売を行っている。
- ・ 「もりずむの木」には、耐久性、粘り強さ、香り、色艶などの特長があり、特にセラピー効果が抜群である。その販売用途は、住宅主要構造材（柱、梁桁）、内装材（床板、壁板など）である。2017年の販売実績は、材積169 m<sup>3</sup>、売上高2,000万円となっている。
- ・ 天然乾燥材がもたらす健康への好影響（リラックス効果、ストレス抑制効果、免疫力のアップ等）については、近年の研究成果により実証されてきている。一方、これらの効果は、人工乾燥材では減退してしまうことも研究で明らかとなっている。これは、人工乾燥材は高温で乾燥させるため、細胞を殺してしまい、健康に有用な成分が減少するためと考えられる。ただし、人工乾燥材は、変形しにくいというメリットがあり、工業製品としては優れているという面もある。どちらを選ぶかは考え次第だが、我々としては、健康への効果を重視して、天然乾燥にこだわっている。
- ・ 「もりずむのマキ」の製造販売は、山林で発生する間伐不用木等を有効利用して、「薪」を製造・販売するものである。1）零細山林所有者の応援（山の手入れの経済的支援）、2）収入源の複合化による林業の再生、3）「CO<sub>2</sub>排出」を抑制することによる地球温暖化防止への貢献などを狙いとしている。また、原木買取りの際に「地域通貨券（白山もり券）」を発行し、地域商店が潤う流れを作るようにしている。こうしたことにより、経済の地域循環が促進されて、森と林業、地域商店が共に元気になることを目指している。
- ・ 「薪プロジェクト」の具体的内容としては、工場跡地を借りて、薪割り・乾燥ストックを行い、主に県内の薪ストーブユーザーに販売している。直接訪問営業やネット販売によってリピーターを獲得している。
- ・ 子供たちが自分の責任で自由に遊び、子供たちの生きる力、創造性、優しさを育む場として、子供たちの冒険ランド「プレーパーク」を作るという取組も行っている。津市美里町の市有林「美里水源の森」（8ha）において、住民、津市、三重県、セブン-イレブン記念財団、TOTO、もりずむが協同して2013年度から企画・整備を進めている。
- ・ 現在、林業における収入源の複合化を目指す新たな事業として、木の幹からできるお茶「konoki」のプロジェクトを、立命館アジア太平洋大学と共同

を進めている。

- 林業においても獣害は深刻である。30年ほど前はそのようなことはなかったのだが、植林をしても苗をすぐ鹿などに食べられてしまうし、集落周辺の樹齢80年を超えるヒノキであっても株周りの樹皮への食害が増加している。その原因は、鹿などの活動エリアの減少や野犬の駆逐により「人間と野生動物の棲み分け」が無くなったことだと考えられる。「防獣ネット、柵」、「狩猟」などの対策は、効果が限定的である。そこで、「もりずむ」では、「鹿追犬」による追い払いによって、「人間と野生動物の棲み分け」を復活させる獣害対策「鹿追犬」プロジェクトを進めている。もりずむでは鹿追犬として「Q太」を所有している（11頁の写真参照）。
- 「鹿追犬」プロジェクトの具体的内容としては、まず、対象となる犬に対し、鹿追犬としてのトレーニングを行い、人間服従の徹底を図る。そして、パトロールとして、毎日不定時、集落周辺の山林でリードを外して自由に追い払いをさせている（ただし、位置確認のため、GPSのドッグナビを必ず装着している。）。効果として、3年間パトロールを実施した結果、集落及び周辺において、鹿をはじめハクビシンなどの小動物も含めて害獣の出没頻度が激減した。今後は、広域で行うと飛躍的に効果が高まると考えられるので、行政で予算化して、獣害対策事業として取り上げてもらいたいと考えている。
- 「もりずむ」についての今後の課題としては、まず「組織の事業運営が不安定」であることが挙げられる。事業売上がまだ不安定で、事業収支が年度ごとに大きく上下するため、雇用を安定的に確保することが難しく、現状では、常勤職員1名の確保が精一杯となっている。また、「資金の確保」も課題である。「もりずむの木」で2年以上、「もりずむのマキ」で半年以上の乾燥が必要で、広大なストックヤードと原木確保のための資金が必要である。これらの課題解決のため、今後、主軸事業「もりずむの木」の事業規模の拡大、平準化を進めていきたい。
- 森林及び天然乾燥木材の持つセラピー効果は、癒し、リフレッシュなど健康面に大きく貢献するので、暮らしの中にもっと広められるようアピールしていきたい。また、中山間地に残る中小企業は、それぞれにポリシーを持って生き残りをかけて活動しており、地域の誇り、郷土愛を育むためにも、切磋琢磨しながら元気に盛り上げていきたいと考えている。

### 【主な質疑応答】

（山本（佐）委員）条例に期待することについて説明いただきたい。

（回答）条例を制定されるのであれば、1）中小林業事業者の持続的な経営のために必要となる倉庫、機械、運搬車両、重機等の施設の改修に対する支援、

2) 「森の出口」拡大に向け、その担い手となる製材、流通に携わる人材の育成(「緑の雇用」事業の「製材、流通分野版」の創設)、3) バイオマス発電ではなく、経済の地域循環を実現するためのバイオマス熱利用事業の推進(発電FITではなく、「熱FIT」の導入の検討)、4) 子供たちの生きる力、仲間、自然を慈しむ心を育むための「プレーパーク事業」に係る最低限の施設整備及びスタッフ人件費等への支援、5) 獣害対策「鹿追犬」プロジェクトに対する支援、6) 林業事業の「Jクレジット」対応の促進といったことを期待している。

(西場委員) 中小林業事業者の施設の改修に対する支援を期待しているという話の中で、このもりずむの施設の屋根にも問題があるということであったが、どうということか。

(回答) 雨漏りがしており、木材の乾燥に支障が生じているということである。

(西場委員) バイオマス熱利用事業の推進を期待しているという話の中で、ヨーロッパでは「熱FIT」の事例があるとのことであったが、どこの国か。

(回答) イギリスにそのような制度がある。

(今井委員) 天然乾燥にすることで高付加価値化を図っているとのことであったが、人工乾燥の木材と比べて価格的にはどれくらいの差があるのか。理想の金額で販売できているのか。2年間、天然乾燥させるということで経費的にはすごくかかると思うが、価格への反映度はどのようなものか。

(回答) 天然乾燥で高付加価値化を図ることで価格の適正化を目指しているが、希望通りの価格では売れていない。もともとの木材価格があまりにも下がっていて、市場価格の倍で売っても採算が取れるかわからない状況である。現在の市場価格は、山から伐り出す費用を間伐等に対する補助金で賄っていることが前提となっている。山への補助金がなかったら、山元の利益は0か、むしろマイナスになってしまう。我々も補助金なしでやっていけることを目指しているがなかなか難しい。天然乾燥することによって、通常の木材よりも2~3割くらい価格を上げさせてもらっているが、手間がかかっているので、それでもきつい。建築費用のうち木材にかかる部分の比率は、2,000万円の家を建てる場合、200万円足らずであり、1割に達しない状況。木は家を支える大事な部分なので、もっと費用をかけてもらってもいいのではないかと思う。200万円の3割だと高々60万円であり、天然乾燥材だと耐久性もあるので、その辺りを施主さんに理解していただけるようにしたい。

(今井委員) 天然乾燥に使用しているのは、三浦代表副理事長のところで生産した木がメインなのか。市場で購入した木は使っていないのか。

(回答) そうである。トレーサビリティがしっかりできているのであれば、市場で仕入れてもいいが、それは不可能なので、自前の木を使っている。

(今井委員) 天然乾燥木材の販売相手はどのようなところになるのか。

(回答) 工務店とか、建築設計事務所とか、あるいは、板材などは直接エンドユーザーに販売している。

(今井委員) そういう流通先や出口戦略について、天然乾燥の良さを知ってもらうことも含めて、サポートを行政に期待するということか。

(回答) そうしてもらえるとありがたい。

(今井委員) 鹿追犬のQ太は、どこかで犬を手に入れて、自ら鹿追犬として育成したのか。

(回答) 猟師のところで、これが一番向いているのではないかと言われた子犬を譲ってもらった。最初はあまり言うことをきかなかったが、しばらくしたら鹿を追うようになった。その後、人や飼い猫に噛みついたり、人の家に入り込んだりしないように、林業界では有名な福井県の犬の教育の達人に1か月預けて教育してもらった。

(今井委員) 農業の獣害対策に比べて遅れている林業の獣害対策の中でのいろいろな取組の1つとして、鹿追犬のデータを公的に検証し、いろいろな対策の中で鹿追犬が有効なことを示すことが重要と考えるが、今後、この取組を広げていこうと考えているのか。

(回答) 実際、山の中で暮らしていて、柵で獣害を防ぐことは絶対不可能と感じている。また、網の部分がごみになってしまう。一方、犬はフレキシブルであり、パトロールで広範囲に動き回るので、鹿が安心して交尾できなくなる。そうすると、中長期的に鹿の数は激減していくと考えている。なお、法的には、犬はつないでおかないといけないことになっているが、獣害対策犬は警察犬、猟犬と並んで、その限りではないとなっている。

(今井委員) 他県でも鹿追犬のような取組はされているのか。

(回答) まだあまりされていないと思う。最近、このQ太が結構出張で仕事をしている。

(中森委員) 天然乾燥の工程としては、山で伐った木を外で1年乾かし、近くの製材所で製材して、ここに運んでストックしているという感じか。

(回答) 山で約3か月寝かせるが、木の状態に即して、寝かせておく時期は臨機応変に対応している。その後、自分のところで持っている製材所で製材し、

ここで乾燥させて、工務店などに販売している。

(中森委員) ここで扱っているのは、A材が中心か。

(回答) ほぼA材である。

(中森委員) そうすると、山で伐った残りの木はどうしているのか。

(回答) 山で伐った残りの木も、節があっても欲しがる人もいるので、例えばパレット材などとして出したり、バイオマス用として出したりしている。木を伐る段階で、売れるかどうか、また、山のバランスを考えて選木している。

(中森委員) 天然乾燥だと、含水率は何%くらいになるのか。どうしても設計士などは含水率を気にするので、天然乾燥だと必要な乾燥度が保たれなくて購入を断念するケースもあると聞くが、どうか。

(回答) 経験上、例えば18cm直径の3mの丸太だと、100kgあったものが37kgになっており、山で63kgの水がとんでいた。大体出荷する前は20%くらいの含水率となっている。

(中森委員) ここでは、造作材などの細かい部材も扱っているのか。

(回答) そうである。

## 【調査の様子】

<説明聴取の様子>



<もりずむ活動拠点の見学の様子>



<県産材の天然乾燥の様子>



<もりずむの木工品の陳列>



<「鹿追犬」プロジェクトで活躍している犬「Q太」>



<木の幹から製造したお茶「konoki」>



## (2) ウッドピア松阪 調査

日 時：令和2年7月21日（火）13:20～14:55

場 所：ウッドピア松阪（松阪市木の郷町）

対 応 者：ウッドピア市売協同組合 中川 浩之 理事長  
          Jスマイル内装材協同組合 勝田 裕紀 理事長  
          ウッドピア松阪協同組合 工藤 剛 事務局長  
  谷口 陽城 氏

調査内容：ウッドピア松阪における原木市場、製材、バイオマス活用等の状況について

調査行程：①座長挨拶、委員自己紹介

②調査内容についての対応者からの説明

③質疑応答

④原木市場、内装材に係る製材施設等の現地見学

⑤木質バイオマス関係施設、天然乾燥材に係る製材施設等の車上看学

⑥座長挨拶（御礼）

### 【説明の概要】

- ・ 成熟しつつある人工林資源、木材需要構造の変化、外材主導と製品輸入の増大といった木材需要等の変化に対応し、木材産業の抜本的な構造改革が早急に必要ということから、製材コストの低減、乾燥の推進、高次化効果の推進、品質管理の徹底、原木の安定供給体制の整備、マーケティング活動の充実、技術開発・新商品開発等を図るために、木材コンビナートとして「ウッドピア松阪」が形成されることとなり、平成13年に開業した。
- ・ ウッドピア松阪は、新しい機能を導入した先進的な木材総合流通加工基地づくりを目指している。具体的には、1）価格、供給量の安定性（外材、代替材と同等の価格、量、供給体制）、2）工業製品並の一定した性能と保証（寸法、乾燥等品質の管理と保証）、3）豊富な品揃え（役物、集成材、内装材、プレカット等）など、住宅産業等の木材供給に対するニーズに合わせた国産材産地を形成するため、21世紀における総合流通加工拠点としての各々の機能を連結させた木材コンビナートの整備を目的としている。
- ・ ウッドピア松阪の面積は41haで、木材流通に関する施設として、原木市場、製品市場、販売会社、流通検査場等が、木材加工に関する施設として、木材製材工場、集成材加工工場、内装材加工工場、プレカット工場、チップ工場等が立地している。
- ・ 原木市場等の取扱量は、素材16万<sup>m</sup>、製品6万<sup>m</sup>であり、製材工場等の

原木消費量は5万m<sup>3</sup>である。

- ・ 総事業費は、約142億円（造成等70億円、施設整備72億円）であり、ウッドピア松阪協同組合（組合員数30名）を事業主体としている。
- ・ 戦後植林した木が伐採期に入り、成熟する資源をなんとかしなければならぬということと、外材の大量流入に対抗するため、国・県・市の支援を受け、ウッドピア松阪が設立されることになった。これまで国産材は零細な製材所で製材されることが多く、品質にばらつきがあったので、ウッドピア松阪では、乾燥機を導入してしっかり乾燥させたり、流通検査協同組合による検査を行ったりして、安定価格・安定品質・安定量を実現し、「ウッドピアブランド」を構築しようとしている。
- ・ 原木市場は、開業した平成13年度はすごく盛況で、60億円近い売上げがあった。それから19年経ち、昨年度は33億円の売上げがあったが、今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、4月の特市を中止した。それは、特市は、普段であれば200人～300人が集まるので、感染のリスクが高いためである。通常の市も競り子が立ち会って競りをすると「密」が避けられないので、5月の市は初めて入札で実施したが、良いものは高く売れるが、悪いものは売れないという極端な結果となった。
- ・ 平成13年の開業時は、ヒノキが1m<sup>3</sup>で約50,000円、スギが1m<sup>3</sup>で約25,000円であったが、現在は、スギ、ヒノキ両方1m<sup>3</sup>で15,000円前後となっている。しかも、それで売れるかという売れにくい状態である。
- ・ 最近では、N社のベニア工場が多気町にできたことにより、10,000円～15,000円の材を買ってもらえるということで、かなりの原木がこの市場を通してN社の工場に流れている。底値が安定したことにより、山からの伐採等の管理が楽になった面はある。ただし、昔と比べて単価的にはかなり下がっている状況。
- ・ 三重県内に製材所は約340か所あり、松阪市だけで94か所ある。三重県は製材所が多く点在していたが、今はかなり淘汰されて、特色を生かした製材所だけが残っている状況。そういう状況の中、ウッドピア松阪は、木材コンビナートという構想の下、市場で原木を集め、製材所、プレカット工場、チップ工場などを揃えるという一連の流れを持った組織となっている。
- ・ 平成18年にチップ製造という形で「ウッドピア木質バイオマス利用協同組合」が設立された。大体1日80tくらい、松阪木質バイオマス熱利用協同組合のほうに送っており、製油の熱源になっている。
- ・ スギ、ヒノキといった材木をフローリングや壁板等の内装材という形に加工することで、木材需要の拡大を図るため、Jスマイル内装材協同組合を立ち上げた。

- ・ 三重県内ではJスマイル内装材協同組合だけが行っている表面圧縮という技術がある。針葉樹には表面が軟らかいという欠点があるが、200℃の温度で表面に熱圧をかけることで、硬くしようとするものである。表面圧縮により表面だけを硬くすることで、細胞をつぶさないようにし、スギ、ヒノキの呼吸自体はそのまま生かしておくようにしている。合板等にはない、スギやヒノキの無垢の良さを広げたいと考えている。
- ・ 木材産業が発展しないと山の管理もできない。山の手入れができなくなると、最近問題になっている災害の発生にもつながっていく。山が潤うことで、海産物も含めた資源が保たれると思っている。そういう思いも込めて、Jスマイル内装材協同組合を立ち上げた。
- ・ これまでの実績として、県内でも青山小学校などの公共建築物等に納めている。また、東京都の歌舞伎座や名古屋市の御園座の内装や、東京オリンピックの会場である有明体育館にスギで製作した椅子1万席も供給している。
- ・ 最近、公共建築物が三重県内で少なくなってきた。県産材を利用すれば、施主などにメリットがあることが望ましい。今は、県産材利用に対する補助金も一切なくなっている。地産地消の材料を使って地域が潤うような仕組みを作ってもらいたい。また、公共建築物等に木材を使ってもらえるようにしてほしい。
- ・ 全体的に住宅用材の構造変化として、構造用合板が増えることによりラス板が少なくなるとともに、集成材が出てきたことで、無垢の材が減ってきた。また、一番山元に還元されていた役物、化粧材も、和室の減少により減っている。今は、単価は安い量がさばける並材が主流となり、山に還元できるような大きな材の需要が減ってきた。「ウッドファースト」ということで木をふんだんに使い、なるべく大きな木を使っただいて、木と触れ合うことの良さを広めていってほしいと思っている。

### 【主な質疑応答】

(今井委員) 5月の市を入札で実施したところ、優良な木は売れるけれども、そうでないものはなかなか売れないとのことであったが、優良材と並材で、あるいは等級で利益、立米単価はだいぶ違うのか。こちらの市場で売っている木はどの層が多いのか。

(回答) 優良材としては飯高材が昔から多いが、良材を持ってきても単価が上がらないのが現状。N社に運べる材は、10,000円～13,000円の材が多い。そういう材が多い山を主として伐採している。良材も売れることは売れるが、これまでのような価格では売れない。もったいないという気持ちで山に残している人が多い。この市場に出てくるのは並材が主流になっている。

(今井委員) 良材を出してもなかなか単価が上がらず、出したいけれども出せない状況ということだが、出さずにずっと山に残しておいても大丈夫なのか。良材を今出さなくても、将来価格が上がってくれば出せるようになるものなのか。将来的にどのようにすればそれらの良材をうまく活用していけるのか。

(回答) 山に残しておく、径級がだんだんと太くなっていく。一方、どのくらいの太さの材が使われるかというのは、その時によってまちまちである。ここ数年は、名古屋城の建設で 13m×50cm のヒノキがブームとなり、普通なら 80 万円くらいの立米単価で売れるものが、200 万円までいった。必要となればどこまででも金額は上がる。しかし、そのような需要がいつ来るかが問題。

(今井委員) 公共施設への木材利用のような形で需要を生み出すということも、行政として重要。必要があれば、それに応じた形で出してもらえる木はたくさんあるということなので、受容と供給のバランス、特に需要をいかに生み出すかということが大事だと感じた。

(回答) 今更、和住宅を建てようという提案をしてもなかなか難しい。需要を生み出すために、モダンな用材、かっこいい使い方ができればいいかなと思っている。

(今井委員) この辺りの地域では、伐った後の植林はどのような状況か。

(回答) 現状では、植林はかなり難しい。

(今井委員) 原木が 1 m<sup>3</sup> 15,000 円で、それをプレカットや内装材として様々に加工して、それぞれに販売されるのだと思うが、原木で 1 m<sup>3</sup> 15,000 円のものに付加価値がついて、最終的にはどれくらいになるのか。

(回答) 内装の場合、原板を加工すれば大体倍の値段にはなる。ただし、内装の場合、芯を中心とする柱と違って、板になるので、ガワでとることになるが、ガワでとれる材は数がしれている。単価的には、内装の場合はフローリングなど表面に見える形なので、節のないものが高くなる。節のないものは柱でも高いが、今は和室がなくなってきているので、そういった節のない柱は別にいらないということで、節があってもなくても同じような値段になってきているのが現状。内装材の場合は、節のありなしが見えるので、それによって値段に開きがある。

(濱井委員) 記念市というのは、木が出やすいのか。どういう状況なのか教えていただきたい。

(回答) 月 1 回、特市を開催している。特市は、材が一番寄ってくる市となっ

ている。それ以外に、平常市を開催している。

(濱井委員) 大径木の製材については、どのような状況か。

(回答) 大径木の製材については、グリーンウッドタクミ協同組合が、今回の緊急コロナ対策の補助金という形で手を挙げ、大きい丸太を加工して、内装材用に供給したり、集成材用に供給したりしている。

(濱井委員) 大径木は、普通の柱に使うのは難しいと思うが、神社などに使うのか。

(回答) 大体直径 50 c m以上ものを大径木として扱っている。例えば、秋田県でテーブルを作る業者は、直径 1 mものを狙ってくる。そういうところには、新秋田材という名前で、ちょっと目の粗い材を売っている。なお、こちらの市場から買ったものが吉野に行くと吉野材になったり、秋田に行くと新秋田材になるというわかりにくい状況にある。三重県産ということはあまり表に出ないが、全国用の材は三重から出ているものが多い。

(濱井委員) ここで取り扱っているのは県産材が多いのか。県外からも来るのか。

(回答) 県産材が多いが、県外からも来る。ただし、県外もいろいろと考えていて、例えば、静岡県で出た材は静岡県内で売れということになっており、我々も営業をかけてとりにいっていたが、なかなか難しい時代になっている。原木に関しては、三重県産のものは、「三重県産材」という記載をして、他県から入ってきたものとは区別している。公共物件で県産材指定のものがあったりするが、ウッドピア松阪では、トレーサビリティがしっかりしているので、県産材の証明が出せるようになっている。

(杉本委員) 身近にもっと木材、県産材が使われるようにと願っているが、まず公共がそれを推進すべきと考えている。公共というと小学校、中学校等の学校関係がすごく多いのだが、そういったところで、木造は無理にしても、今建っているものの内装の木質化等の取組がもっと進まないかなと思っている。ウッドピア松阪にも販売の部門があり、営業もいろいろとしていると思うが、これまで公共、公的な施設に木材、県産材をとるような営業戦略をとられたことがあるか。また、今後、公共部門への木材・県産材利用を進めるにはどういうことが必要だと思うか。こういうことを条例に盛り込んで、県として取り組んでもらえれば進むのではないかとすることがあれば、アドバイスをいただきたい。

(回答) ウッドピア松阪が立ち上がった時は、県を代表する木材コンビナートということで、県の職員が松阪に駐在されていて、公共関係についてどこに

どういった物件が建つという情報をその職員からいただき、ウッドピア松阪の製品を勧めるというだけではなくて、ウッドピア松阪が県産材を広めるということで説明に行けということで、材木についてわからない設計士等に説明に行っていた。そして、こういった形のものを使うのであれば、ヒノキがいいのではないかななどの提案をしていた。開業して10年間くらいは、ウッドピア松阪に仕事が入るかどうかはわからないが、こういった施設計画があるので、ウッドピア松阪が木材利用促進のために説明に行けということで情報をいただいて、場合によっては、県や市の担当者も同行して説明に行くこともあった。そういったことが近年なくなっている。情報がないと、我々もどこに行ったらいいのかわからない。気が付いて、県産材を勧めに設計士のところへ行っても、既に合板を使うことに決めているなどと言われる。設計士の段階で説明に行くのが我々の使命だと思っているが、行きにくくなっているというのが現状。もう少し、我々のところに情報をいただきたい。そうすれば、ウッドピア松阪にはPR委員会もあり、我々は木材の推進ということで動くような形になっている。

## 【調査の様子】

＜説明聴取の様子＞



<原木市場の様子>



<原木市場の見学の様子>



<木材倉庫の見学の様子>



<内装材に係る製材施設の見学の様子>



<バイオマス利用のための木材集積場の様子（車上看学）>



### (3) 松阪市 調査

日 時：令和2年7月21日（火）15:00～15:50

場 所：ウッドピア松阪内の会議室（松阪市木の郷町）

対 応 者：松阪市産業文化部 砂子 祐一 農林水産担当理事

北村 恭一 森林経営管理担当参事  
兼林業振興課長

竹岡 和也 林業支援センター所長

中林 正明 林業支援センター副所長

教育委員会 中西 雅之 教育総務担当参事  
兼教育総務課長

鈴木 吉紀 教育総務課係長

中川 直俊 教育総務課主任

議会事務局 北川 信助 係長

調査内容：松阪市における県産材利用促進の取組等について

調査行程：①座長挨拶、委員自己紹介

②調査内容についての対応者からの説明

③質疑応答

④座長挨拶（御礼）

#### 【説明の概要】

- ・ 松阪市は、土地の7割を森林が占めており、林業のまちとして木材産業が盛んではあるが、昭和50年代以降、木材価格は低迷しており、また、今般の新型コロナウイルスの影響で大きな打撃も受けており、松阪市の木材産業は厳しい状況にある。
- ・ 木材の流通を広げ、地域材を活用していくために、「三重の森林づくり基本計画」や「みえ公共建築物等木材利用方針」に準じるような形で、市の特性を踏まえて、平成25年に「松阪市公共建築物等木材利用方針」を定め、木材の活用を図っている。この方針に基づき、実際に、学校や保育園等で木材を活用した。
- ・ 最近では、川田中学校の建築における内装の木質化や春日保育園新園舎の木造での建築、今年度においては、公民館を木造建築で進めるなど木材利用を図っている。
- ・ 公共建築物への木材利用の推進に当たっては、様々な課題があると考えている。その中でも特に、林業部門だけでなく市役所全体で、積極的に木材を利用していくという意識や木材に対する知識を高め共有していくことが重

要な課題だと考えている。

- ・ 松阪市においては、この課題に対応していくため、公共建築物の建築を検討する実施計画の段階から、予算の計上を担当する部署、実際に設計建築を担当する部署、木材利用の推進を担当する部署が連携して、施設の規模、内容、予算額等を考慮して、最大限木材を活用できるよう協議検討を行う体制を整え、木材利用の推進を図っている。この体制から、実際に春日保育園新園舎における市有林の活用等につながった。
- ・ 春日保育園では、その設計、建築を進めるに当たっては、「松阪市公共建築物等木材利用方針」に基づき、市有林の有効活用と、より明確に優良な松阪産材の活用を進めるため、通常とは異なる、構造材（柱、<sup>はり</sup>梁、桁等）の加工と建築工事を別々に発注する「材工分離発注」に初めて取り組んだ。
- ・ 春日保育園新園舎に木材を利用したことで、木の良い香りがするとか、雰囲気<sup>は</sup>が明るいといった新園舎利用者からの声だけでなく、木材利用への需要の高まりに期待を寄せる林業木材関係業界からの声もあった。
- ・ 公共建築物に木材を利用することは、市民が木材に興味を持つ最も効果的な取組と考えている。今後、このような取組に合わせて、市内林業木材業界関係者と連携を図ってイベントを開催するなどして木材利用の推進に積極的に取り組むことで、地域林業の活性化につなげていきたいと考えている。
- ・ 学校施設における木材利用の現状と課題について、学校施設の改築の際には、小学校施設整備指針や中学校施設整備指針に基づき、内部仕上げ等に松阪市産のスギやヒノキを用いることとしている。具体的には、改築の設計を行う際には、仕様書でスギやヒノキについては、松阪市の地場産業木材を使用することを求めている。ただし、費用がかかることもあり、改築は中々進んでいない。
- ・ 木のぬくもりのある学校環境づくり、地域産材の利用による地域経済の活性化、地域への関心の向上、傷つきやすい木製の製品を利用することによる物を大切に<sup>する</sup>心の養成等を目的として、松阪地域材を利用した木製の机と椅子を市内の全小中学校に導入している。平成 18 年度から平成 22 年度にかけて小学生 6 学年分に導入し、マイデスク制として、1 年生から 6 年生まで 6 年間同じ机と椅子を使用することとしている。その後は 6 年生から新 1 年生に机と椅子を引き継ぐこととし、その際には、机の天板のみ交換を行い、それ以外の部位については、修繕等で机や椅子の維持管理を行っている。

### 【主な質疑応答】

(中森委員)「松阪市公共建築物等木材利用方針」では、耐火建築物でないならば積極的に木造化を促進し、耐火建築物であっても可能であれば木材を利

用することになっているとのことだが、実際のところはどうか。

(回答) 1階建ての公共建築物であれば、まずは木造で検討することとしているが、費用がかかり実際のところは難しい。予算計上担当課と執行担当課、林業担当課で連携して木造の検討はしている。

(中森委員) 公共建築物において松阪市産材はどの程度用いられているのか。

(回答) 例えば、ウッドピア松阪で扱っている木材でも、岐阜県産材や和歌山県産材、奈良県産材もあり、松阪市産材だけでなく三重県産材であっても全ては賄えないのが現状。また、どこ産の木材かまでは把握しにくいこともあり、松阪市内で加工したものを松阪市産材として扱うこともある。

(杉本委員) 鉄骨等と比較すると木材は費用面でどれほど不利になるのか。

(回答) 木材の方が若干高いが、2割程度高いくらいなら木材を使うように市長が言っている。1階建て建築物ならその程度で済むが、2階建て以上となると厳しい。ただ、全てを木材としなくても、部屋の壁4面のうち、2面だけを木材とするだけでも木の良い香りはするので、一部に木材を利用するという方法もある。

(杉本委員) 2割程度高いくらいなら木材を使うようにと市長が言っているとのことだが、トップのリーダーシップはやはり重要か。

(回答) その影響は大きい。

(杉本委員) みえ森と緑の県民税や森林環境譲与税の現状はどうか。

(回答) みえ森と緑の県民税は建築物には直接利用していないが、森林環境譲与税は、森林整備主体に基金を作って今後公共に利用していく計画である。個人向けにも使いたい縛りがあるので、県と協議しているところである。

(今井委員) みえ森と緑の県民税の使用用途は。

(回答) 小学校の机、椅子の整備が終わった後、保育園の机、椅子の整備等に使っている。

(今井委員) 地元の業者に発注しているのか。

(回答) 加工業者は市内とは限らないが、森林組合が納入業者ではある。仕上げは大阪の業者がやっていることもある。

(今井委員) 材工分離発注は良い仕組みだと思う。全国的に普及しているやり方なのか。

(回答) あまり例はないと思う。実際に材工分離発注を行うことは難しく、今後続けていけるかはわからない。

(杉本委員) 小学校の机、椅子の購入費用は、みえ森と緑の県民税で全て賄っているのか。

(回答) 全てではない。みえ森と緑の県民税ができる前は、市の単独事業として行っていた。

(濱井委員) 県条例への期待は。

(回答) 県条例の中で、市に対する新たな支援策があればありがたい。

(濱井委員) 個人向けに何か取組はしているのか。

(回答) 個人向けの取組としては、家を建てるまでの一連の業者が参画する顔の見える松阪の家づくり推進協議会を立ち上げた。70 m<sup>2</sup>以上の家で10 m<sup>2</sup>以上松阪産の木材を用いる等の基準を満たせば、松阪市から15万円、松阪地区木材協同組合から4万円、森林組合から1万円の計20万円を支援している。年間25棟くらいの例がある。

(杉本委員) 校舎等に木材を使う教育的効果について改めて確認したい。

(回答) 繰り返しになるが、傷つきやすい木材を用いることで、物を大切にす  
る心が養われると考えている。

**【調査の様子】**

＜説明聴取の様子＞

